淡紫色ノモノデアッタ、てうせんのぎくノ樣ニ花ノ平開スルモノニ於テハカヽル現象ハ一ツノ進化デアラウ、尚コレヲ構造上カラ見ルト周邊ノ舌狀花ガ順次連絡シタモノデアッテ若シ言フ事ガ出來レバ聯合花トデモ云フベキ筋合ノモノデアルガ子房丈ハ確實ニ銘々獨立シテ居ルカラ花ノ聯合シタモノデナクタヾ舌狀花冠丈ガ合一シテ鐘狀ヲ呈シタモノデアル卽チ合瓣花瓣ガ更ニ合瓣シタモノデアル、コノ再ビ合瓣シタモノガ外圍トナッテ内部ノ花ヲ擁護シテ居ル尙内部花瓣ハ何レモ單一ナ花デ其中央ハ勿論黃色ノ管狀花デアル

コレハ相當珍型ナノデ牧野先生ニご覽ニ入レタラ早速ニソノ腊葉ヲ寫生サレタカラ其圖ヲ其儘茲ニ借用シテ挿圖トシタ、若シ同好ノ諸賢中植物妖怪現象ニ興味ヲ有セラルヽ仁ノお笑ひ草トモナレバ幸甚ト言ハザラント欲スルモ豈得ベケンヤデアル、イヤ「スピード」時代ニコンナモノヲ紹介スル時代錯誤ノ方ガお笑ひ草ニナル可能性ヲ多分ニ有スルノカモ知レナイ、何レナリ共兎ニ角お笑ひ被下度此段奉願上候、頓首再拜、昭和四年一月吉日

【牧野云フ】久内君ノ此コニ記サレタ變形花てうせんのぎくハ兎ニ角極メテ珍ラシイ者デ恐ラク菊科ノ中ニコンナ例ハメッタニアルマイト思フ、私ハ之レヲ一ノ新變種トシテ Chrysanthemum sibiricum FISCH. var. campanulatum MAKINO. ノ學名ヲ之レニ與ヘル事ニシタ、ソシテ新和名ヲおぐらてうせんのぎくト呼ンダラヨイト思ヒ其名ニ極メタ、卽チ小倉貞子氏ヲ紀念シタ名稱デアル

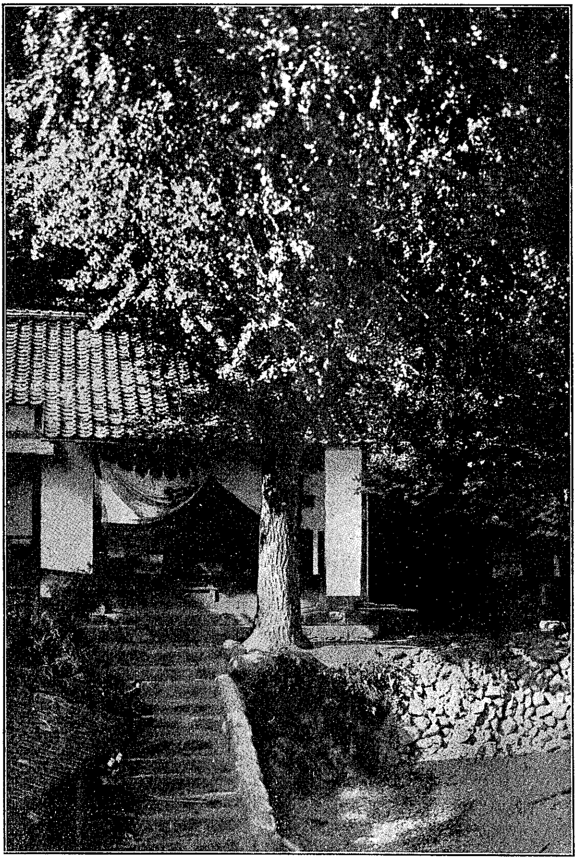
○因幡ニ產スル謂ユル御葉つき銀杏

因幡國鳥取市　生駒義（ヨシ）博（ヒロ）

銀杏ガいてふノ葉ニ生ルコトハ明治二十五年白井博士甲州下山上澤寺ニアルコトヲ知ラレ、藤井博士ハ明治二十九年植物學雜誌第十卷ニ圖版ヲ添ヘ歐文ヲ以テ此ノ奇異ナル現象ヲ發表セラレテヲルカラ植物學者仲間デハ

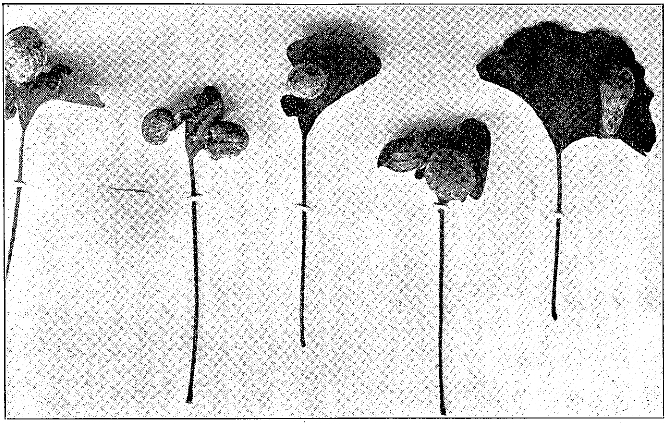
早ヤ五十年近クノ前カラ知ラレテヲルワケデアル、其ノ後向坂道治氏ハ藤井博士ノ後ヲウケテ研究ニ從事セラレ其結果ハ本誌第三卷第七號ニ「甲州身延山ノ御葉附きいてふノ正體」ト題シテ圖版ヲ添ヘ平易ニ述ベラレ又昭和二年植物學雜誌第四十一卷藤井教授在職二十五年祝賀記念論文集ニ圖版ヲ添ヘ「御葉附き銀杏の形態學的意義に就て」トシテ發表サレ詳論セラレタ

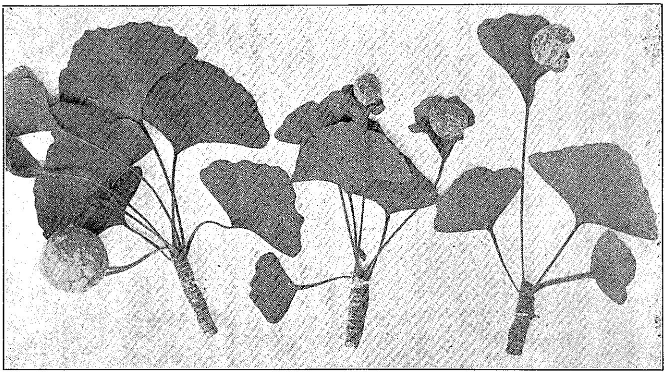
此レ等諸家ノ研究ニヨッテ見ルト何レモ老樹ニ現ハレル「老年相」デアッテ一時的畸形ノ現象デナイ事ヲ結論セラレテヲル樣デアル、所ガ因幡國八（ヤ）頭（ヅ）郡賀茂村大字福本、上土居二百八番地祖師堂境內ニ若木デアリナガラソノ葉上ニ實ノ生ル「葉銀杏（はいてふ）」一名「葉成り公孫樹」謂ユル御葉つき銀杏ガアッテ昭和四年三月鳥取縣發行ノ鳥取縣史蹟名勝天



樹齡七十年ニ足ラヌ若木デ御葉つき銀杏トナッテ居ル因幡國
八頭郡賀茂村福本ノ祖師堂境内ノいてふノ木
(生駒義博撮影)

然記念物調查報告第三冊「名勝及天然記念物の調查」ニコノいてふニ就テ色々書イテ置イタ、其後本誌第六卷第二號ニコノ研究家向坂道治氏ハ再ビ「謂ユル御葉つき銀杏」ト題シテ因幡產ヲ引例シテ老年相ナル學說ノ非ナルコトヲ發表サレタガコノ若木ノ經緯ニツイテ記錄ヲ殘シオクコトハ大切ナコト、思フ


福本ノ御葉つき銀杏
(生駒義博撮影)


福本ノ御葉つき銀杏
(生駒義博撮影)

今コノいてふニツキ所在地福本ノ區長三好繁造氏ニ聽クニ祖父三好覺三郎「甲州下山村上澤寺ノ分（ワカ）レ公孫樹」ト稱ヘ白犬天神ノ毒消銀杏（四八八號）（請受ケタル號數ナラン）ト稱スル葉上ニ實ヲ結ブモノ、種子ヲ請受ケテ植エタト、又祖師堂下ノ農家ニテ今島兼太郎（七十五歲）ナル老人ノ話ヲ聽クニ此ノ老人少年時代三好覺三郎ガ

二本ノ公孫樹ノ一本ヲ自宅ニ一本ヲ祖師堂ニ植エタノニ堂ノ方生育シ當時ノ住職愛育シタ爲メ生長早ク今日ノ大サトナッタト、是レニ由テ考ヘルニ老人ノ年齡七十五歲ガ十歲ノ時トシテ實播キノモノトシタナラバ凡ソ六十五年前ノコト、三年生ノ苗木トシタナラバ凡ソ六十八年前ノコトニナル、ソレカラ實ヲ葉上ニ結ブ樣ニナッタノハ約三四十年前ノコトデアッテ其ノ頃御葉つき銀杏ノ着生スル方ガ多カッタガ近來ハ普通ノ果實ノ方ガ多クナリ成熟期ニハ附近ノ子供ガ集ッテ拾フ有樣デアル

之レヲ植エタ三好覺三郎ハ當時村內キッテノ物識リデ又信仰厚ク甲州身延山ニ參詣シタコトハ事實デアルガサテコノ御葉つきいてふガ甲州カラ持歸ッタ種子ヲ播イタモノカ又苗木デアッタカ或ハ又他ノ方面カラ得タモノデアルカハ確言シ難イガ三好氏老母ノ直話ニ「甲州下山上澤寺ノ分レ公孫樹」ト傳ヘ居ルハ眞ヲ措クニ足ルモノト思ハレル、大抵ノ傳說ナドハ信ズルニ足ラナイモノガ多イガコレハドウモ眞實ラシイ、ソウスレバコノ性質ハ遺傳シタモノデアルコトハ間違ナイト信ズルコトガ正當ノ樣デアル、昭和四年四月史蹟名勝天然紀念物第四集第四號ニ山梨縣ニ於ケル御葉附いてふト題シ石原初太郎氏ガ發表セラタル內ニモ若木ニコノ現象ガアルモノガアル樣デアル、福本ノ御葉附いてふハ幹直通シテ三米三五糎ノ高サニ三本ノ大枝ヲ生ジ他ニ一枝ハ切リ取ラレテアルガ枝三十有餘ヲ出シテヲル、栽植當時ヲ知ル人モ現在生キテヲル位デアルカラ樹ハマダ若イガ生育良ク樹齡七十年位デアルニ拘ハラズ一見百年生以上ニ見エル、今コノ樹ノ大サヲ測定シタノニ

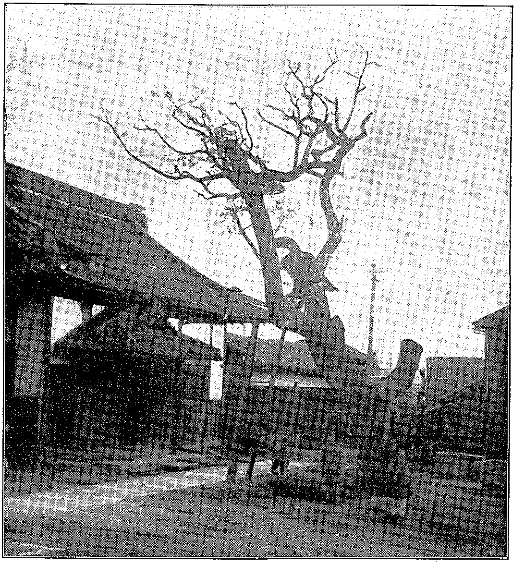
地上　二五糎ノ高サデ周圍二米四五糎　五〇糎ノ高サデ周圍二米二一糎　一米ノ高サデ周圍二米五糎
　　　二米ノ高サデ周圍一米九五糎
樹高　四〇米三〇糎

デアル尙向坂氏ハ葉上ニ銀杏ヲ生ズル公孫樹トシテ十個所程擧ゲラレ其ノ末尾ニ鳥取縣八頭郡大御門村字西御門仁王堂境內ノいてふヲ擧ゲラレタルモコレハ何カノ間違デアル、コノ附近ノ數十本ニツキ精細ニ調査シタガ

カヽル奇形ノモノハ他ニ一本モ見出シ得ナカッタ

○兵庫縣神戸市脇ノ濱、德清寺ニアル所謂日本內地唯一ノ龍眼ノ古樹

兵庫縣、灘中學校　川崎正



兵庫縣、神戸市、脇ノ濱、德清寺ノ前ニ在ル謂ユル
龍眼肉ノ木、實ハたぶのき
(昭和四年十一月二十七日川崎正撮影)

昭和四年七月三十日ノ大阪每日新聞ニ「龍眼肉の古樹」ト云フ題デソレガ寫眞入リデ出テ居ッタ、ソシテ其文ハ「日本では珍しい龍眼肉の古樹が神戸脇濱町德清寺境內にある、國道工事のために寺は移轉となるが樹木も少し道路に食ひ入りさうなので既記の如く保存の問題が起こってゐる、往古支那から移し植ゑたもので樹齡すでに六百年、果實はならないが珍重すべきものであらう、すでに七分通り枯れて生氣のあるのは一と枝ばかり、將來あまり長命でもあるまいといはれてゐる」デアッタ、兵庫縣神戸市附近ノ露地ニ龍眼ノ古木ガアルトハスコブル變ダカラ行ッテ見度イト思ッテヰタガ俗務ノ爲メニ果サナカッタ所ガ昭和四年十一月ニ牧野先生ガ西下セラレタノデ先生ト同行シテ其邊ヲ通過スル用事ガアルノヲ幸ヒ先生ヲソヽノカシテ首實檢ナラ